

# アームレスリング経験生かし運動から健康まで総合的にサポート

セルフィット整骨院院長 菅原芳治氏

病気の予防の運動方法も指導

高校時代からアームレスリング（腕相撲）の選手だった菅原芳治院長は学生時代、日本チャンピオンになり日本代表で国際大会に出場し優勝した実績を持つ。さらにTBSのテレビ番組「筋肉番付」に出演した経験もある。大学もアームレスリングで推薦入学、ま

さに腕一本で勝ち進んだ。アームレスリングに出会ってから自分自身のトレーニングに目覚めた菅原氏。大学時代にスポーツジムでトレーナーのアルバイトをはじめたのがきっかけで、卒業後は現在の開業地、東京・恵比寿でパーソナル・トレーナーとして独立開業した。

「アームレスリングの選手時代から自分でダイエット、筋力アップなどやっていくうちに



にトレーニングに興味を持ち始めました。スポーツジムでは、膝が痛い、腰が痛いなどリスクのある人の方がトレーニングに対する取り組みが真

剣であることに気付き、いつしか治療に興味を持つようになりました」と柔道整復師を目指した動機について語ってくれた。

パーソナル・トレーナーを始めた当時は、月に200本くらいの予約が入るほどの盛況ぶりだった。20歳代半ばで月に100万円、年商1000万円を超えるほどになった。しかしその時点が天井だと悟った菅原氏。これ以上は単価を上げるか、スタッフを育てて派遣して仕事を増やしていくか、の岐路に立たされた。しかし、菅原氏の出した答えはどちらもなかった。景気に左右されやすいトレーナー業より、かねてから興味があった治療の道だった。

「トレーナーという仕事は非常に好きだったのですが、国家資格ではないことへの不安もありました」と考えた菅原氏は、柔整師の資格を取ることによってこの不安が解消できた。国家資格を取った上で、「治療も含めりハビリテーションから予防・運動などといった健康をトータル的にサポートできるようにしたい」という願望もあった。ただ治療をしてそれで終わり、というのではなくて、病気になるような日常生活の過ごし方や運動方法などを指導したかったのだという。

現在の問題は、導線が1つしかつけれないので、一般の患者さんと美容目的の自費患者さんが干渉してしまうことが問題点としてある。もちろん、治療時はカーテンを閉めて完全個室化するが、自費の患者さんが他の患者さんと会うのを嫌うとのこと。

自費患者1人あたり20〜30分治療で、おおよそ2000〜3000円が平均。電器治療700円、針治療1000円（10分）他、メニューがあるが、保険内で施術をしていてあまり改善がみられなかった患者さんが自費治療を受け始めるというのが流れのようである。交通事故の患者も多いという。

## ビル4階の整骨院の工夫

柔整師を目指した菅原氏は、27歳で仕事をしながら柔整専門学校に通いはじめた。30歳で卒業、青山の整骨院で修業を積み現在地で独立・開業した。

セルフィット整骨院は東京・恵比寿と広尾の中間あたりに位置するビルの4階にある。ビルのオーナーがスポーツジムの会員だったことから、この地での開院となった。恵比寿はリラクゼーションやエステティック・サロンの激戦区で、整骨院としては敬遠されがちな立地条件だ。だが、もともとトレーナーとしての活動基盤が恵比寿にあったことなどで、仮に新規顧客がなくてもやっていける自信があった。整骨院ではあまり見かけないのがオートロック式の入口だ。院内は高級感を出して、インターネットでそれをアピールすると不思議と新規の患者さんも来るようになった。

なった。

「もう少し器具を置く場所があれば」という院内は、10坪という限られたスペースを最大限に活用している。ベッドが3床と個室2人の鍼灸師と菅原院長で施術にあたりっている。

完全予約制なのだが、予約管理システムにも特徴がある。電話による予約だと少人数スタッフでは対応できないため、治療院、リラクゼーションサロン、スパ専門の予約システム「ワンモアハンド」（クロスリンク）を導入、患者さんがパソコンや携帯電話から24時間予約ができるシステムだ。「患者さんも院側も画面を見ると、どの時間が空いているのかが一目瞭然なので、スケジュール管理にも非常に役立っていますし、新規患者の獲得

にもつながっています」。パソコンと携帯電話が使用できない人のためには従来どおり電話による予約も受け付けている。

## 保険で改善しない人が自費に

同院の患者層は20〜40歳代の女性が多く、60歳代以降の患者は10%に満たないという。患者層が恵比寿界隈に勤務していたり住んでいたりする女性が多いため、施術時間は月々金曜日が午前9時〜午後10時（午後1〜3時までは休憩）、土曜日が午前9時〜午後8時（午後1〜2時まで休憩）となっている。交代制ではなく、鍼灸師2人（午後3時から）と3人で施術している。女性患者が多いため美容に特化ははじめている。自費に関していえば女性の方が、購買力があるそう。そういう意味では「よいものにはお金を使える人たち」が患者層だと言える。

「ただし、効果・効能など正しく説明できないと試してもらえないのがこの層です。メニューだけ飾っていても駄目です」

「保険の患者さんだけを診ていたら、客単価が安いので家賃と人件費を賄いきれない」という。現在、保険と自費の割合は50対50くらいだが、徐々に自費率を高めていく予定だ。

そのために、鍼灸師の女性スタッフを1人増員して現在は3人体制で臨んでいる。

「保険はこの場所でも均一料金なので、もしも保険だけで賄おうとしたら1日、80人の患者さんの来院が必要です。このスペースではそんなことは到底無理ですしマンパワー

的にも対応できません」

現在の問題は、導線が1つしかつけれないので、一般の患者さんと美容目的の自費患者さんが干渉してしまうことが問題点としてある。もちろん、治療時はカーテンを閉めて完全個室化するが、自費の患者さんが他の患者さんと会うのを嫌うとのこと。

自費患者1人あたり20〜30分治療で、おおよそ2000〜3000円が平均。電器治療700円、針治療1000円（10分）他、メニューがあるが、保険内で施術をしていてあまり改善がみられなかった患者さんが自費治療を受け始めるというのが流れのようである。交通事故の患者も多いという。

痩身や冷え性などに有効でエステサロンでも使用され、また、ヨーロッパのサッカーチーム「FCバルセロナ」や「インテルナツィオナーレ・ミラノ（インテル）」などでも使われている治療器「インディバ」をこの春新たに導入。これによりさらなる自費率のアップを期待している。他にも医療用ウォーターベッド、干渉波治療器などが設置されている。

## 今後は自費を中心に店舗増やす

現在は1院のみだが、2年後にはもう1院設ける構想があるという。

「もう少し広いスペースに自費・保険を機能的に、患者さんのニーズに合わせた施術ができるような治療院にしたいです。美容・トレーニング・リハビリ・予防が融合した施設



をつくっていききたいと思っています。健康を保つため個々の患者さんの特性に合わせて日常の運動指導をしてあげても、皆さんほとんど自宅では実行しないことがわかりました。やはりスポーツジムが存在する理由が改めて理解できました。患者さんが来院するたびに、短時間でそれが実行できるようなシステムを確立していきたいと考えています」と語る菅原院長。

今後、自費を中心にしていく上で、日曜日の営業も検討している菅原院長は、「寝る間も惜しんで仕事したい。今は、やる気が満ちあふれているときなのでいろいろなることにチャレンジしていきたい」という、結果を出すためには努力を惜しまない35歳だ。

